

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		情報システム学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	川人 宏行
授 業 の 概 要				
就職活動を控え、これから、社会人になるにあたって、必要なスキルを身につける 3KAN教育の後半として、就職活動を通して社会人に必要なスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
1. 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2. 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3. 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ	内 容		
1	企業訪問/就職試験について/ 企業が欲しい人材/自己分析 就職活動の確認	企業が求める人材の理解と自分を理解する 各学科で就職活動について確認事項を確認する。		
2	グループディスカッション・ワーク	ディスカッション（インバケット思考） ～聴く力をつけ、いい質問をする～ 1. グループワーク 2. Win-Winの関係		
3	就職や社会におけるSNSの活用 ・ SNSを就職活動に役立てる方法と 注意点について理解する ・ SNSが扱う個人情報や社会でどう 関わっているのかを、法律的な観点 から理解する ・ 「著作権」や「肖像権」への意識 を高める。 ・ SNSやWeb上で写真や動画を扱う際 の注意点を理解する。	(前半) 1. SNSとはどのようなものか 2. SNSを利用した就職活動の方法例 3. SNSの利用を誤った場合の失敗例 (後半) ・ 著作権とは？ ・ 肖像権とは？ ・ SNSへ画像や動画を投稿する際の注意点		
4	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。		
5	新聞を通して、情報の入手の仕方 や、新聞の読み方を学ぶ 外部講師（徳島新聞社）	①仕事に必要な基礎能力とは ②基礎能力向上に新聞がなぜ役立つか ③新聞と他メディアの違い ④慣れない新聞の読み方 ⑤1日10分で基礎能力のトレーニングになる新聞の使い方		
6	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。		

回	テ ー マ	内 容		
7	社会に出た際に必要となる知識を学び理解する（働くことの基礎知識～労働・給与・税金～） 外部講師（小西先生）	給与計算の基礎知識 ・給与に関する法律 ・給与支払いの5原則 ・給与明細の見方 ・残業時間の計算 ・法定労働時間と変形労働時間制 ・残業時間を計算する ・時間外労働の割増率 ・税金について		
8	就職するにあたって	社会人になるということ 学生と社会人の違い		
9～ 15	就職活動に於いての個別相談	学生の進捗状況の把握と、個人指導を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業担当者によるレジュメ		出席率	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
レクリエーション実習		情報システム学科／3年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	川下 秀之
授 業 の 概 要				
徳島市立体育館を使用し、適度な運動を行う。 体育館が使用できない場合は、頭を活性化できる室内ゲームを行う。				
授業終了時の到達目標				
普段動かさない体の各部を使用することで、健康的な体を育成する。 ITの使用や勉強などによるストレスを発散し、心身の健康を保つ。 室内ゲームにより、脳内の活性化と、グループワークを身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 準備運動をして体を慣らしておくこと				
回	テ ー マ	内 容		
1	スケジュールリング	翌週からの競技計画を立てる		
2～7	体育館でのレクリエーション	チームスポーツの体験 ・バレーボール ・バスケットボール ・バドミントン ・フットサル ・ドッジボール ・ドロケイ ・陣取りゲーム など		
8	教室でできる事を実施	eスポーツ等の体験		
9～12	体育館でのレクリエーション	チームスポーツの体験 ・バレーボール ・バスケットボール ・バドミントン ・フットサル ・ドッジボール ・ドロケイ ・陣取りゲーム など		
13	教室でできる事を実施	eスポーツ等の体験		
14～15	体育館でのレクリエーション	チームスポーツの体験 ・バレーボール ・バスケットボール ・バドミントン ・フットサル ・ドッジボール ・ドロケイ ・陣取りゲーム など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
徳島市立 体育館		競技結果 企画書・運営 服装・準備	50.0% 40.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
IoT演習		情報システム学科／3年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	吉村 健太
授 業 の 概 要				
IoT関連の機器の設定、アプリ開発の基本を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
IoT関連の機器の設定、アプリ開発の基本ができるようになる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	【実務経験】 吉村 健太：システム管理、システム開発経験16年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
3～4	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
5～6	ラズベリーパイの導入	ラズベリーパイのハードウェアや初期設定方法の理解		
7～8	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
9～10	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
11～12	ラズパイの使い方超入門	LEDを使ってのラズベリーパイの簡単な使い方と操作方法		
13～14	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
15～16	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
17～18	複雑な配線	拡張機能を使っての複雑な配線		
19～20	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
21～22	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
23～24	動力	モーターなど、モノを動かしてみる		
25～26	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		
27～28	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		
29～30	情報を受け取る	データのインプットにより、動作する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Raspberry Pi Raspberry Pi 工作キット		課題・レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
サーバ構築演習		情報システム学科／3年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	松崎 友亮
授 業 の 概 要				
Linuxサーバの構築				
授業終了時の到達目標				
Linuxの基本コマンドを習得する 目的に応じたサーバー構築が出来る知識を習得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		松崎 友克：システム開発経験8年、Webアプリ開発経験5年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	第1章 サーバ構築の概要		1-1サーバ基盤のビジネス背景 1-2本書におけるサーバ構築前の事前準備	
2～5	第2章 リモート接続サーバ		2-1遠隔操作の導入検討 2-2遠隔地からのコンソール、電源、メディア管理 2-3SSHサーバの構築 2-4VNCサーバの構築 2-5XRDPSサーバの構築 2-6shell in a boxサーバの構築 2-7Bastillionサーバの構築	
6～7	第3章DNS、時刻同期、DHCPサーバ		3-1ネットワークサービスの検討 3-2DNSサーバの構築 3-3BIND 3-4Dnsmasqによる簡易DNSサーバの構築 3-5時刻同期サーバの構築	
8～9	第4章WEBサーバ		4-1webサーバ・負荷分散サーバの検討 4-2Apache HTTP Server 4-3NginxによるWEBサーバの構築 4-4負荷分散サーバの構築 4-5冗長化HAProxyサーバの構築 4-6HTTPアクセラレータサーバの構築	
10～11	5章データベースサーバ		5-1データベースサーバの検討 5-2データベースサーバの動向 5-3PostgreSQLサーバの構築 5-4PostgreSQLクラスタの構築 5-5MariaDBサーバの構築 5-6MariaDBを使ったLAMPスタックの構築 5-7NoSQLサーバの構築 5-8NewSQLサーバの構築	
12～13	6章ファイルサーバ		6-1ファイルサーバ/ストレージサーバの検討 6-2NFSファイルサーバの構築 6-3NFSGaneshaサーバの構築 6-4Sambaファイルサーバの構築 6-5iSCSIストレージサーバの構築 6-6FTPサーバの構築 6-7S3互換オブジェクトストレージサーバの構築	

回	テ ー マ	内 容
14～ 15	第 7 章ログ管理サーバ	7-1ログ収取サーバの構築 7-2ログデータの転送 7-3Fuentdサーバの構築 7-4Apache Kafkaサーバ 7-5Apache Flinkサーバの構築
16	第 8 章メールサーバ	8-1メールサーバの検討 8-2メールサーバの構築 8-3Postfixサーバの構築 8-4POP/IMAPサーバの構築 8-5WEBメールサーバの構築
17	第 9 章社内検索エンジンサーバ	9-1検索エンジンサーバの検討 9-2Elasticsearchサーバの構築 9-3Apach Solr サーバの構築 9-4Fessサーバの構築
18	第 1 0 章Kickstart/パッケージリポジトリ	10-1自動インストールの仕組み 10-2pxeブートと起動イメージ 10-3BIOSモード対応の自動インストールサーバの幸徳 10-4UEFI対応の自動インストールサーバの構築 105パッケージリポジトリサーバの構築
19	第 1 1 章仮想化基盤	11-1仮想化基盤の検討 11-2kvmによる仮想化基盤 11-3Proxmox on Nested KVMサーバの構築 11-4VirtualBoxサーバの構築 11-5Vagrantサーバの構築
20～ 21	第 1 2 章コンテナ基盤	12-1コンテナ基盤の検討 12-2Dockerサーバの構築 12-3Dockerサーバ (rootlessモード) の構築 12-4Singularityサーバの構築 12-5Rancher Kubernetes Engin2サーバ 12-6コンテナ向けCPUエミュレーション
22	第 1 3 章バージョン管理サーバ	13-1バージョン管理の検討 13-2Gitサーバの構築 13-3GitLabサーバの構築 13-4Subversionによるバージョン管理
23～ 24	第 1 4 章インフラストラクチャ・アズ・コード	14-1構成管理サーバの必要性 14-2Puppet Boltサーバの構築 14-3Ansibleサーバの構築 14-4Terraformサーバの構築 14-5Dockerfileを使ったIaC 14-6Singularity Recipeを使ったIaC
25	第 1 5 章バックアップサーバ	15-1バックアップサーバの検討 15-2Rsyncバックアップサーバの構築 15-3Grsyncの導入 15-4UrBackupサーバの構築
26	第 1 6 章A I サーバ	16-1A I サーバ基盤の構築 16-2GPU搭載A I サーバの構築 16-3生成A I サーバの構築 16-4A I 推論サーバ

回	テ ー マ	内 容		
27	第17章開発環境・高速計算サーバ	17-1 H P Cサーバ基盤 17-2 S M P高速計算サーバの開発環境の構築 17-3分散型並列計算クラスタの構築 17-4 M P I 環境の構築 17-5 Slurmクラスタの構築 17-6 JupyterHub on ARMサーバ		
28	第 1 8 章監視サーバ	18-1監視、可視化の検討 18-2 Prometheusサーバの構築 18-3 Grafanaサーバによる可視化 18-4 Collectdサーバの構築 18-5 Graphiteサーバの構築 18-6 Netdataサーバの構築		
29～ 30	第 1 9 章セキュリティ対策・統合認証サーバ	19-1セキュリティ対策 19-2 GVMサーバの構築		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Rocky Linux9&Alma Linux9実践ガイド [サーバ構築編]		課題・レポート	100.0%	

作成者:川人 宏行

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報処理/ベンダー対策		情報システム学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	4単位（90時間）	必須	川人 宏行
授 業 の 概 要				
・ 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野別対策を行う				
授業終了時の到達目標				
基本情報処理の合格 応用情報処理試験の合格				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～14	基本情報午後対策		問題答練	
15～44	過去模試・本試験		本試験形式の問題にて答練を行う	
45	期末試験		期末試験を行い理解度の確認を行う	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	60.0%	
		確認テスト	40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
R P A 演習		情報システム学科／3年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	川人 宏行

授 業 の 概 要

RPAツールを利用しPC上でのルーチンワークを自動化する技術を学ぶ

授業終了時の到達目標

RPAツールを利用し上でのルーチンワークを自動化することができるようになる

実務経験有無 実務経験内容

有

エンジニアとして5年間勤務

時間外に必要な学修

回	テ ー マ	内 容
1	RPA概論 BizRobo!概要説明	「RPAとは」 「BizRobo!の操作画面/用語」
2	BizRobo!を使った開発	「Webサイトに値を入力して情報を取得する」
3	BizRobo!を使った開発	「Excelに値を入力して情報を取得する」
4	BizRobo!を使った開発	「Excel-Web間の連携（繰り返し）」 EXCELの情報をwebに登録する
5	BizRobo!を使った開発	「条件分岐Web情報取得」 条件によって処理を分けてEXCELに入力する
6～ 7	BizRobo!を使った開発	「PDF」 PDFから文字列を取得する
8	BizRobo!を使った開発	「EXCEL集計」 複数のEXCELから情報を取得する
9	BizRobo!を使った開発	「WebからCSV」 Webの情報を取得してCSVに出力する
10	BizRobo!を使った開発	「CSVからExcel」 CSVから情報を取得しEXCELで出力する
11	BizRobo!を使った開発	「日付処理」 日付情報を取得してEXCELに出力する
12	BizRobo!を使った開発	「エクスペッション」 式を使用して条件判定を行い結果をEXCELで出力する
13	BizRobo!を使った開発	「ファイル解凍」 圧縮ファイルをロボットで解凍する
14	BizRobo!を使った開発	「ファイル圧縮」 ファイルをロボットで圧縮する

回	テ ー マ	内 容		
15	BizRobo!を使った開発	「DAとは」 desktop automationについて理解する 「起案・業務選定・設計」 RPA開発までのステップを確認する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
RPAデジタル業務改革_前編/後編		課題・レポート	100.0%	

作成者: 山田 紘平

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
クラウドセキュリティ概論		情報システム学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	山田 紘平
授 業 の 概 要				
セキュリティに関する基礎				
授業終了時の到達目標				
クラウドにおけるセキュリティの基礎的な知識を身につけていること				
実務経験有無		実務経験内容		
有	エンジニアとして5年間勤務			
	社会人経験を活かし、学生のロールモデルとなるように授業展開する			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	情報セキュリティ		情報セキュリティ	
4～6	クラウドの利用動向とクラウドセキュリティ		クラウドの利用動向とクラウドセキュリティ	
7～11	クラウド時代の法的対応		クラウド時代の法的対応	
12～16	クラウド特有の脅威と管理策		クラウド特有の脅威と管理策	
17～21	クラウド環境を活かすシステム設計と運用		クラウド環境を活かすシステム設計と運用	
22～25	クラウド時代の開発・運用技術		クラウド時代の開発・運用技術	
26～29	問題演習		問題演習	
30	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
オンラインテキスト		確認テスト 期末試験	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ビジネスマナー		情報システム学科／3年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	板東 里枝
授 業 の 概 要				
Ⅰ. 基本的な社会の仕組み・経済用語・ビジネス用語を理解して社会人として必要な基本的な知識を習得する。				
Ⅱ. 社内外の人との良好な人間関係を築くために、適切な敬語表現を活用し、正確なビジネス文書を作成し、様々なビジネスシーンでの状況対応ができる幅広い知識・技能を習得する。				
Ⅲ. 指示された仕事を遂行するために、職場のマナー、来客応対、電話応対の基本、結婚・弔事のマナー、文書の取り扱いなどの知識・技能を習得する。				
授業終了時の到達目標				
Ⅰ. 社会人常識マナー検定3級取得				
Ⅱ. 就職活動期から学生の常識は通用しなくなることを自覚し、正しい社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーションを学び、活用する。				
また、社会・組織の一員として必要不可欠な基本的知識を身につけ、社外内の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
次回の授業内容を踏まえて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	◆動機付け ◆社会人常識マナー検定概要説明 Ⅰ. コミュニケーション		◆動機付けおよび、授業概要説明 ◆検定目標：社会常識マナー検定内容説明 Ⅰ. コミュニケーションとは ビジネスにおけるコミュニケーションとは コミュニケーションの種類 社内コミュニケーション	
2	Ⅰ. コミュニケーション		コミュニケーション向上のポイント 第一印象の重要性 好感をもたれる立ち居振る舞い 挨拶と美しいお辞儀	
3	Ⅰ. コミュニケーション Ⅱ. 社会常識		わかりやすい話し方と上手な聞き方 指示の受け方・報告の仕方	
4	Ⅲ. コミュニケーション②		敬語、丁寧語、謙譲語を使い分ける 職場での言葉遣い	
5	Ⅲ. コミュニケーション②		ビジネス文書の書き方と留意点 社内文書の種類と目的 ビジネス文書の形式と作成ポイント	
6	確認プリントを解く		コミュニケーション章での確認問題を解く	
7	Ⅳ. ビジネスマナー		来客応対 名刺交換	
8	Ⅴ. 電話応対		受け方の基本手順	
9	Ⅵ. 交際業務		慶事マナー 弔事のマナー 病氣見舞いについて理解する	

回	テ ー マ	内 容		
10	VII. 文書の受け取り・発送他	文書類の受け取りや発送 郵送方法 オフィス環境整備、事務機器		
11	社会人常識マナー検定対策①	過去問題を解き、検定合格のための対策を行う		
12～ 14	社会人常識マナー検定対策②	過去問題を解き、検定合格のための対策を行う		
15	期末試験	前期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
I. 社会人常識マナー検定テキスト2・3級		期末試験	50.0%	
II. 社会人常識マナー検定試験 最新過去問題集		確認テスト	30.0%	
		課題・レポート	20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ビジネスプレゼン演習		情報システム学科／3年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	永田 広志
授 業 の 概 要				
ビジネスについて論理的に考えることを習得する。 プレゼンテーションを通してコミュニケーション能力を習得する。 世界のビジネスとデザインを知る。				
授業終了時の到達目標				
基礎的な理論に基づく課題に対するデザイン能力とプレゼンテーション能力の獲得 「知らない」ことに気づく、知る				
実務経験有無		実務経験内容		
有	永田 広志：グラフィックデザイナーとして6年の実務経験 これまでの経験を活かして、グラフィックデザインの基礎を指導			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業概要	オリエンテーションおよび課題説明：課題1「他己紹介」プレゼンテーションおよび講評		
2～3	付加価値	課題説明：課題2「付加価値の考察」チームワーク		
4～5	ビジネスについて	課題2「付加価値の考察」プレゼンテーション及び講評 課題説明：課題3「ビジネスとは」		
6～7	ビジネスについて	課題3「ビジネスとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明：課題4「デザインとは」		
8～9	デザインについて	課題4「デザインとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明：課題5「ダイバーシティとは」		
10～11	ダイバーシティについて	課題5「ダイバーシティとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明：課題6「SDGsとは」		
12～13	SDGsについて	課題6「SDGsとは」プレゼンテーション及び講評 課題説明：課題7「OpenAIとは」		
14～15	OpenAIについて	課題7「OpenAIとは」プレゼンテーション及び講評 授業まとめ、全課題講評、気づき築く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書及び資料プリント		プレゼン 課題・レポート	40.0% 60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
ビジネス文書		情報システム学科／3年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	2単位（30時間）	選択	板東 里枝	
授 業 の 概 要					
①表記技能/ビジネス文書の書き表し方 ②表現技能/ビジネス文書を書く要領 ③実務技能/ビジネス文書を作成する、取り扱う ④検定過去問題					
授業終了時の到達目標					
①ビジネス文書技能検定3級または2級の取得 ②実社会でビジネス文書を正確、迅速に作成できるよう基本知識を身につける					
実務経験有無		実務経験内容			
時間外に必要な学修					
【準備学習】前回学んだところをプリント等を用いて復習しておくこと					
回	テ ー マ		内 容		
1～3	社会人常識マナー検定対策		第30回～第32回問題実施 解答・解説		
4	表記技能		1. ビジネス文書とは 2. ビジネス文書検定とは 3. ビジネス文書作成のポイント		
5	表現技能		1. 正確な文章を書く 2. 件名をつける 3. 無駄な部分を削る 4. 箇条書きの書き方		
6～7	実務技能		1. 用紙・封筒のサイズと用途 2. 社内文書の基礎知識 3. 社外文書の基礎知識		
8～13	ビジネス文書検定対策		過去問題を解き、解答解説		
14	ビジネスメールの知識		1. ビジネスメールの重要性 2. ビジネスメールの構成 3. ビジネスメールの注意点 4. ビジネスメールの作成演習		
15	期末試験		期末試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
ビジネス文書技能検定問題集			期末試験 課題・レポート 検定対策・結果	40.0% 20.0% 40.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
卒業研究		情報システム学科／3年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	180回	24単位（360時間）	選択	川人, 吉村, 松崎友, 田中健
授 業 の 概 要				
【1】各グループごとにシステムを開発する 【2】企画書を作成し、それに基づく研究・制作の成果物を期限内に提出する。				
授業終了時の到達目標				
【1】システムを開発・テスト・運用までできるようになる 開発目的や趣旨をユーザに説明できるようになる 【2】3年間の学習および産学連携の成果をもとに卒業後の志望分野を視野に入れながら社会課題解決を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	川人 宏行：エンジニアとして5年間勤務 これまでの経験を活かし、学生のロールモデルとなるよう授業展開する 吉村 健太：システム管理、システム開発経験15年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること。 松崎 友亮：システム開発経験8年、Webアプリ開発経験5年 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること 田中 健介：会社にて3年間勤務経験 これまでの勤務経験を活かし学生のロールモデルとなること			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	開発手法の種類と特徴		開発手法の種類や方法、メリット・デメリットについて	
2～7	各自卒業研究テーマを考える		卒業研究として作成したいシステムを各自企画する	
8～9	卒業制作企画発表		各自の企画を発表し、プレゼンを行う	
10～11	卒業研究テーマ決定		各チームで役割分担（フロント・サーバサイド・データ入力・資料作成など）、スケジュール作成	
12～16	チーム作業 1		外部設計	
17	進捗報告		作業進捗報告	
18～22	チーム作業 2		外部設計	
23	進捗報告		作業進捗報告	
24～28	チーム作業 3		外部設計	
29	進捗報告		作業進捗報告	
30～34	チーム作業 4		内部設計	
35	進捗報告		作業進捗報告	

回	テ ー マ	内 容
36～ 40	チーム作業 5	内部設計
41	進捗報告	作業進捗報告
42～ 46	チーム作業 6	内部設計
47	進捗報告	作業進捗報告
48～ 57	チーム作業 7	環境設定・システム開発
58	進捗報告	作業進捗報告
59～ 68	チーム作業 8	環境設定・システム開発
69	進捗報告	作業進捗報告
70～ 71	中間報告	卒業研究の企画、現在の進捗状況を報告する
72～ 81	チーム作業 9	システム開発
82	進捗報告	作業進捗報告
83～ 92	チーム作業 10	システム開発
93	進捗報告	作業進捗報告
94～ 98	チーム作業 11	システム開発
99	進捗報告	作業進捗報告
100 ～ 109	チーム作業 11	システム開発
110	進捗報告	作業進捗報告
111 ～ 120	チーム作業 11	システム開発
121	進捗報告	作業進捗報告
122 ～ 131	チーム作業 12	システム開発・システムテスト
132	進捗報告	作業進捗報告
133 ～ 144	チーム作業 13	最終報告準備、設計書作成
145 ～ 154	チーム作業 14	システム最終調整・最終提出書類作成

回	テ ー マ	内 容		
155 ～ 180	最終報告	卒業研究の最終報告を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	30.0%	
		中間報告	35.0%	
		最終報告	35.0%	